

10周年記念誌



ボーイスカウト塩谷8団

2002年3月

目次

育成会長挨拶.....	3
ボーイスカウト塩谷第八団創立十周年にあたって.....	3
団委員長挨拶.....	4
塩谷8団10周年に寄せて.....	4
スカウト保護者コメント.....	5
各隊寄せ書き.....	11
ビーバー隊.....	11
カブ隊.....	11
ボーイ・ベンチャ隊.....	12
8団の歴史.....	13
歴代役員指導者履歴.....	14
夏季舎営・キャンプ開催地一覧.....	16
写真集.....	17
発団(1992 年).....	17
創生期(1993 年-1995 年).....	18
成長期(1996 年-1999 年).....	19
拡大期(1999 年-2002 年).....	20
指導者研修・表彰履歴.....	27
研修履歴.....	27
表彰履歴.....	28
指導者の一言寄せ書き.....	28
編集後記.....	29

育成会長挨拶

ボーイスカウト塩谷第八団創立十周年にあたって

育成会長 小堀 泉

ボーイスカウト塩谷第八団創立十周年を記念してご挨拶を述べさせていただきます。

さて、過ぎて見ると本当に時の経つのは早いもので、ボーイスカウト塩谷第三団が指導者不足で活動できず、しばらくは休団という形であった氏家のスカウト活動でしたが、見通しが立たずそのままになっていたものを、安部重孝氏(現副団委員長)の努力により塩谷第三団としての復活はできなかったものの、ボーイスカウト塩谷第八団として新たに発足し、10年のスカウト活動が続いていることは嘗て少年時代に塩谷第三団のスカウトとしての思い出を持つものとして、本当に感慨深いものがあります。

それと同時にこの時代に紆余曲折はあったものの、粘り強くここまで活動を支え、現在は県北第一位の団員数を誇る団に育て上げてきた安部重孝氏の努力に本当に感謝するものです。

また、指導者として休日子ども達のスカウト活動のために時間とエネルギーを奉仕してくださっている多くの皆さんに心から感謝を申し上げます。

育成会長という役職名をいただきながら皆さんの活動に何の協力も出来ないことが心苦しく思っているところですが、気持だけはまだまだ野山を駆け巡っているスカウトであります。

これから塩谷第八団が益々大きくなり、より多くの子ども達がスカウト活動の楽しさと活動を通して得られる「生きる力」を獲得していけるよう微力ではありますが協力していくことを祈念して挨拶いたします。

団委員長挨拶

塩谷8団10周年に寄せて

団委員長 森島 仁

ボーイスカウトがまだ少年団と呼ばれていた昭和20年代から氏家には団がありましたが昭和50年代以降は指導者不足から休団状態にありました。

しかし、1991年に団復活の気運が高まり、小堀さん(現育成会長)や安部さん(現副団委員長)達と共に団設立準備委員会を立ち上げ、92年7月に塩谷8団はスタートしました。

以来、今年で10年。

発団時はスカウト17人・指導者5人でしたが、現在はビーバー隊からベンチャー隊の4隊編成。スカウト89人・指導者28人にまで増えてまいりました。

活動面でも12回日本ジャンポリや関東キャンポリへの派遣・カブラリーへの参加・町民体育祭でのプラカードや国旗掲揚と対外的にも充実した活動を展開しております。これもひとえに保護者の方々の活動へのご理解とご支援、さらには貴重な時間をさいて集会運営のみならず、諸会議や指導者研修とご奉仕頂いている隊指導者のお陰と改めて感謝申し上げます。今後も宜しくお願い致します。

ボーイスカウト運動の目的は「幸福な人生を歩めるような良き社会人づくり」であります。ボーイスカウトは奉仕団体でもなければ、キャンプ同好会でもありません。奉仕活動やキャンプを含めた野外活動は上記目的達成の為の手段に過ぎません。全てのスカウトが良き社会人に成長するよう、いろいろな場面でいろいろな経験を提供していける塩谷8団にしていきたいと思います。

一度きりの人生です。共に楽しく この道をいきましょう。

弥栄

スカウト保護者コメント

塩谷8団 10周年記念誌

カブ隊 佐藤 光子

保護者コメント

カブ隊に入隊してから二年六ヶ月が過ぎようとしています。ビーバー隊から合わせると、四年になります。ビーバー隊からカブ隊に上進する時に、真新しいカブ隊の制服を見てとても感動したのを今でも覚えています。三年間着用できるようにと大き目のサイズを購入したのに、今ではズボンの裾や袖が短くなってしまいました。鮮やかだった紺地が色あせてきて、それさえも子供の成長した証だとうれしく思います。さて、中身の方も成長してくれたでしょうか。

スカウト活動に参加するようになったきっかけですが、私自身幼い頃に野山をはだして駆け回り、自然の中で遊んだ経験があったので、(野生児?)息子にも同じような経験をさせてやりたかったからです。期待したとおり、指導者や上級生の方々とのキャンプ・舎営など行事を一つ二つとこなすたびに成長してたくましくなって帰ってくる我が子の姿がありました。指導者の方々に教わったベーゴマ、自然の素材で手作りする遊具など、家庭ではなし得ない事を経験しました。隊長にもらった“エビ結び”のロープは大事に宝物にしています。カブ隊の中での最上級生となった今、下級生をまとめる立場になったというのに、諸事情により出席もままならず、くじけそうになった時にも隊長のあたたかい励ましのおかげでなんとか続ける事ができました。今後ともあせらず、くじけず活動に参加させていくつもりです。そして子供の成長の様子を見守っていこうと思います。

カブ隊に入隊してから二年六ヶ月が過ぎようとしています。ビーバー隊から合わせると、四年になります。ビーバー隊からカブ隊に上進する時に、真新しいカブ隊の制服を見てとても感動したのを今でも覚えています。三年間着用できるようにと大き目のサイズを購入したのに、今ではズボンの裾や袖が短くなってしまいました。鮮やかだった紺地が色あせてきて、それさえも子供の成長した証だとうれしく思います。さて、中身の方も成長してくれたでしょうか。

塩谷8団 10周年記念誌

塩谷8団

現在中学一年の息子健太が、塩谷第八団のパンフを小学校二年の五月に見て、ボーイスカウトのことで知り、

“どんなことをするの。ぼく、行ってみたいな。はじめはちょっと見るだけ”と、

こんな小さなきっかけが始まりでした。

高根沢からたった一人の入団者。これこそ私達が望んだことでした。誰も知っている人(子)がいないところで、自分から進んで声をかけ、お友達の輪を広げていく。何でもないようなことが、今はとてもむずかしく感じられます。家の中でのゲームが遊びの主になってしまい、自ら考え集団行動を行うことの大切さを、上下関係の中で経験してほしいと思いました。

幼稚園の時から体格が良かったため、女の子や自分より小さい子に対して、いじわるをしたり言ったりしてはいけないと言ってきました。そのため確かにやさしいけれど、ここ一番という時の判断力が乏しく感じられます。

いろんな集団があり、その中にはいろんな人が存在し、いろんな考え方があります。それを吸収し、体験してほしいと健太には話しています。今すぐ形に表れなくても、後々いろんな場面で実践できたら、とてもすばらしいことであり、無駄じゃないよとも。

今までにいろんな波がありました。部活動や団活動の高度化など。でも指導者の方々の「よお、健太来たな久しぶり。」の励ましの言葉にずい分助けられ、ここまで来しました。

親は親としての見方しかできないけれど、多くの人と接することで潜在的な面を引き出してくれると思います。

今の健太がこれからも大きく成長できるよう、親としてもバックアップしていきたい。人が地域が集団が、心も身体も大きく成長させてくれると信じています。

指導者の方々に心から感謝申し上げます。

塩谷8団 10周年記念誌

塩谷8団設立10周年、おめでとうございます。また日頃より、同じ保護者でもあり、子供たちのスカウトとしての健全な育成にボランティア精神で当たって下さっている指導者の方々をはじめ、関係者の皆様に、この場をかりて、厚く御礼を申し上げます。

我が家では、長男・衛がカブ隊、次男・令がビーバー隊としてお世話になっています。三男・豊も未来のビーバーとして先日の団祭では、飛び入り参加をさせていただき、兄弟そろってスカウト活動を楽しんでいます。

私がボーイ・スカウトときいて、思い出す事があります。私が高校三年生の時の男子クラスメイトです。彼には、例えばクラスメイト一人一人の人の気がつかない良さや魅力を引き出す力があり、特にみんなから、『変な奴だ。変な先生だ』と思われている人達にその威力が発揮され、彼のお陰でそのクラスは、仲のよい楽しいクラスでした。その彼の提案で冬休みのとある夜に、オーバーナイトハイキングを1/3のクラスメイトで行ったのです。出発は担任の先生の家(神奈川県藤沢)からで、英語の担当の先生も参加していました。結局、足を痛めた子が出たので、葉山の御用邸前の海岸で真夜中の豚汁パーティをやって終わりました。それはそれは、おもしろくおかしく、充実した青春の一日でした。こんなにみんなを楽しませてくれる彼は、実はボーイ・スカウトに入っていたのです。かれは野外活動はもちろん、色々な事をよく知っていて、私は『ボーイスカウトって素晴らしいことが学べるんだなあ。』と大変よい印象を持つ事ができました。彼は今も私の良き友人です。

我が家の家の子供達にもぜひ素晴らしい経験を味わい、たくましくそして楽しく生きる力を身に付けてほしいと願っています。そして少年時代、青春時代により友達を沢山作って下さい。それは、一生の宝物ですよ。

阿久津 千春(東京都立大・経済学系教授、元・日本経済新聞記者)

阿久津 千春(東京都立大・経済学系教授、元・日本経済新聞記者)

ボーイスカウト塩谷8団が設立されると知り、年中だった息子と仲間入りさせていただいてから10年。少々、時の流れの早さに戸惑いを感じています。

今年4月 無事 高校生となった息子をなぜボーイスカウトに入れたのか？記憶の糸を手繰り寄せると・・・確か、これから先、どんな場所、状況に置かれても、自分の知恵と経験で切り抜けられる人間になってもらいたいと言う思いからでした(大きすぎる期待?)でも・・・なぜ続けてきたのか？当時、設立されたばかりの団は、問題も多く、このままでは消滅するのでは？と思った事もあり本当に大変でした。それでも子供達と一緒に活動し、たくさんの笑顔に触れると「よし」また次と、力が湧いたのでしょう。森の中での基地作り、大人もスカウトも、ビッシヨリになり真剣に遊んだ水鉄砲、山登り、etc 楽しい思い出はいっぱいです。そして、多くの仲間達、でも、それだけでは続けてこれなかったはず、何かわからない魅力があるんだと思います。

何年前だったか、「ボーイスカウトって何なのかな？」と言う疑問に対する答えは、ボーイスカウトに長年携わってきた方でさえ「何なのか今だに分からない、それだけおくが深いんです」と言うものでした。その時「細く長く続けさせてみようかな・・・」と。子供も親以上に分からないまま続けてきていると思います。でも、見つからなくても、きっと何かが残っていく事を信じ、見守っていこうとおもいます。

役員、リーダーの方々に感謝しながら、

塩谷8団、10周年おめでとうございます。

私の家庭にとってボーイスカウトとは、子供の心が大きく成長する場のひとこまです。

自然の中で自然を大切にしながら、創意工夫して遊ぶことは、今の子ども達にとって一番不足しているものだと思います。

ある活動のあった日、木の枝を使ってパチンコを作り得意そうに持って帰ってきた子供の顔。

「いい物を作ったね。気をつけて遊んでね」

と親が言うと、

「大丈夫！人や動物とかにむけてうたないよ」

と、危険な使い方は、十分承知でありました。

子供同士や、指導者の方と共に遊びの決まりを考えているのだといつも思っています。

押しつけが多い世の中で、親も反省させられることが多いようです。

遊びの数もたくさんあり、ベーゴマも得意になりました。父親と楽しそうに遊んでいるのを見て、母親もチャレンジ！練習してやっとなできるようになり、やっと子供と楽しめるようになりました。

親だけでは、絶対思いつかない遊び、遊び道具をたくさん教えていただきました。

ボーイスカウトのよさをこれからも大切に子供たちに伝えてください。

団長さんをはじめ、指導者の方々本当にご苦労様です。

これからも、子供達の為によろしく願いいたします。

オリオン通りで、宇都宮のスカウトたちが、募金活動をしている所に、出会ったことが何度かあります。その都度、我が家の兄弟たちは、「皆、がんばってるねえ」などと言って募金をしていきます。自分たちと同じ制服に仲間意識をもっているのか、「がんばってください」などと声をかけながら…。後ろを歩きながら私は、そんな姿ににんまりしてしまいます。なぜなら、隊にいれた理由は、このような何気ないことを、ごくあたりまえに行える助け合いの心を持ってもらいたい、との思いがあったからです。

今年で子供たちもビーバー、カブ、ボーイと順々にお世話になり七年目となりました。それぞれ個性ある隊長、副長たちに導いていただきながら、公園で遊び、キャンプし、物作り、ハイキング等…、色々な活動に参加してきました。

中でも喜連川でのハイキングで教わった、もぐさ の作り方は今だに友達に教えているし、皆でまわしたベーごまは子供の愛用品になっています。このように上も下も一緒になって遊んだり、活動したりすることは学校でも家庭でも今の時代、なかなかできることではありません。だからスカウト活動は我家での子育てになくてはならないものだと思います。

我家だけでなく、集団での外遊びがなかなかできないなどと言われている今の子供たちに特に必要な活動ではないでしょうか。今後ますます社会から期待されることと思います。

これからなるべく休むことなく参加できたら、と思います。どうぞよろしくお願いいたします。

カブ隊

あつたかた^カ
たいちうは、^{ハナ}そなた

(2) 2011.09.09

朗

I'm flying

風の中へ飛び出す

ひたひたに輝くような...

Oh Year 鈴木

10周年記念 おめでとう鈴木

10周年とは長いような短いような...

10周年を人々しるがた。佐々木

かんがえた 森田
たのしかった 生井

みじかいような10周年八坂

10周年おめでとう。も、こがはる。竹田

元気100倍 アンパンマン 荒引(兄)

タケコソケ-は越えんてす。荒引(弟)

ボーイ隊

ベンチャ隊

8 団の歴史

91 年	9 塩谷 8 団設立準備委員会設立 (小堀, 西崎, 渡辺, 安部)
92 年	3 第 1 回ビーバー隊集会を試験的に実施 (氏家幼稚園) 6 第 1 回団会議 (喫茶店レモン) 7 発団式 (7/24, 氏家町公民館) 7 第 1 回育成総会 (氏家町公民館) 8 第 1 回夏期訓練キャンプ (氏家町キャンプ場) 11 県カブラリー初参加 (真岡市) 11 日本連盟に正式加盟 12 第 1 回団祭開催
93 年	4 カブ隊発足 4 団会議場所を新町公民館に変更
94 年	4 育成会組織強化 (特別会員の参加) 5 栃木県連盟より組織拡大特別表彰 (小堀, 西崎, 安部) 11 氏家町福祉祭初参加
95 年	4 氏家町より補助金対象団体として認可 4 団会議場所を栄町公民館に変更 9 ボーイ隊発足 9 団会議場所を氏家幼稚園に変更
96 年	4 塩谷町・高根沢町にも募集テリトリ拡大 5 栃木県連盟より優良スカウト表彰 5 寛方・タゴール記念公園除幕式奉仕 9 団会議場所を氏家町公民館に変更 11 氏家町町民体育祭初奉仕
97 年	
98 年	8 第 1 2 回日本ジャンボリ派遣 (坂本, 飯野, 富永)
99 年	8 関東キャンボリ参加 (前橋市)
00 年	7 女子スカウト受容れに関する団内検討開始 9 ペンチャ隊発足 12 女子スカウトの新規募集開始
01 年	6 スカウトハウス引越し (団委員長宅) 10 氏家町で第 32 カブラリー開催
02 年	3 10 周年記念団祭 8 第 13 回日本ジャンボリ派遣 (荒引, 鈴木, 荒引, 安部, 佐々木)

歴代役員指導者履歴

役 職		92.6～93.3	93.4～94.3	94.4～95.3	95.4～95.8	95.9～96.8	96.9～97.8
育成会	相談役	—	—	—	—	—	—
	会 長	渡辺幸司	渡辺幸司	森島 仁	森島 仁	森島 仁	森島 仁
	副会長	—	—	坂本成一 星野光雄	坂本成一 星野光雄	坂本成一 星野光雄 手塚俊一	坂本成一 高野 浩 安部重孝
	理 事	—	—	星野輝男 安部重孝	星野輝男 安部重孝	小堀久夫 佐藤章雄 関 忠夫 安部重孝	小堀久夫 佐藤章雄 関 忠夫 霜田義人
	監 事	—	—	船生正興	船生正興	船生正興	船生正興 小高佐恵子
団委員会	団委員長	吉成達夫	吉成達夫	吉成達夫	吉成達夫	吉成達夫	吉成達夫
	副団委員長	小堀 泉 西崎将晴	小堀 泉 西崎将晴	小堀 泉 西崎将晴	小堀 泉 西崎将晴	小堀 泉 西崎将晴	小堀 泉 西崎将晴
	団委員	渡辺幸司	坂本成一 渡辺幸司	森島 仁 坂本成一 星野光雄 富永英子 小高佐恵子 柏木広美 穴戸雅佳子 渡辺幸司	森島 仁 坂本成一 星野光雄 富永英子 小高佐恵子 柏木広美 白井綾子	森島 仁 坂本成一 星野光雄 手塚俊一 渡辺幸司 羽田優三 阿久津充弘 富永英子 小高佐恵子 柏木広美 白井綾子	森島 仁 坂本成一 高野 浩 安部重孝 渡辺幸司 羽田優三 阿久津充弘 富永英子 柏木広美 白井綾子 手塚淑江 本宮正洋
	団員	—	—	—	—	—	—
ビーバー隊	隊 長	安部重孝	津川恭一	津川恭一	霜田義人	霜田義人	霜田義人
	副 長	後藤史一 滝口宏明 土谷智子	霜田義人 砂川芳徳 本宮正洋 柏木広美 播摩満美 大貫照美 穴戸雅佳子	霜田義人 砂川芳徳 岩崎典保 本宮正洋 白井綾子	津川恭一 本宮正洋	津川恭一 本宮正洋	—
カブ隊	隊 長	—	安部重孝	安部重孝	安部重孝	安部重孝	今野 進
	副 長	—	飯野佳宣 高塩則夫 豊岡信夫 富永英子 秋元美砂位	飯野佳宣 高塩則夫 森田一仁	高塩則夫 森田一仁 砂川芳徳 岩崎典保	白井正明 播摩馨文	白井正明 播摩馨文 星野光雄 岡田孝一 荒引富夫
ボーイ隊	隊 長	—	—	—	—	飯野佳宣	飯野佳宣
	副 長	—	—	—	—	小堀 泉	小堀 泉 津川恭一
ベンチャ隊	隊 長	—	—	—	—	—	—
	副 長	—	—	—	—	—	—

役 職		97.9～98.8	98.9～99.8	99.9～00.8	00.9～01.8	01.9～02.8	02.9～03.8
育成会	相談役	—	—	—	吉成達夫 西崎将晴	—	—
	会 長	西崎将晴	西崎将晴	西崎将晴	小堀 泉	小堀 泉	小堀 泉
	副会長	飯野佳宣 鈴木 武 八板利夫	飯野佳宣 鈴木 武 八板利夫	飯野佳宣 鈴木 武 八板利夫	—	—	—
	理 事	霜田義人 富永英子 高野愛子 碓氷喜美 野村維子	霜田義人 富永英子 高野愛子 碓氷喜美 野村維子	霜田義人 富永英子 高野愛子 碓氷喜美 野村維子	—	—	—
	監 事	船生正興 小高佐恵子	船生正興	船生正興	船生正興	船生正興	船生正興
団委員会	名誉団委員長	—	—	—	—	—	森島 仁
	団委員長	吉成達夫	吉成達夫	吉成達夫	森島 仁	森島 仁	安部重孝
	副団委員長	森島 仁	小堀 泉 森島 仁	小堀 泉 森島 仁	安部重孝	安部重孝	佐々木達三 岡田孝一
	団委員	西崎将晴 樺摩馨文 鈴木 武 八板利夫 安部重孝 柏木広美 手塚淑江 渡辺幸司	西崎将晴 堀内祐子 滝沢美恵	西崎将晴 安部重孝 今野 進 堀内祐子 滝沢美恵	小堀 泉 堀内祐子 竹田和子 滝沢美恵 碓氷喜美 沖田 忍 竹川香織 青木恵子	小堀 泉 星野光雄 竹田和子 碓氷喜美 竹川香織 青木恵子 長島幸子 阿久津千春	小堀 泉 長島幸子 阿久津千春 安部成美 手塚康夫 竹川香織
ビーバー隊	隊 長	吉成達夫	坂本成一	佐々木達三	佐々木達三	佐々木達三	竹川章夫
	副 長	坂本成一 佐々木達三 遠島幸雄 安部重孝	佐々木達三 遠島幸雄 富田勝美 峯田 淳 安部重孝	坂本成一 遠島幸雄 富田勝美 峯田 淳 竹川章夫 手塚康夫	坂本成一 遠島幸雄 竹川章夫 峯田 淳	遠島幸雄 峯田 淳 竹川章夫 松田一男	松田一男 古川和男 甲斐俊介 中島清志
カブ隊	隊 長	今野 進	今野 進	高野 浩	高野 浩	高野 浩	鈴木 博
	副 長	星野光雄 岡田孝一 荒引富夫 高野 浩	星野光雄 岡田孝一 荒引富夫 高野 浩	星野光雄 岡田孝一 荒引富夫	星野光雄 岡田孝一 荒引富夫 富田勝美 手塚康夫 磯 勝次 鈴木 博 竹田和典	岡田孝一 荒引富夫 手塚康夫 磯 勝次 鈴木 博 竹田和典 高木久光 吉沢二郎 沖田 忍	磯 勝次 竹田和典 高木久光 吉沢二郎 沖田 忍 宿利英正 後藤昌利
ボーイ隊	隊 長	飯野佳宣	飯野佳宣	飯野佳宣	霜田義人	霜田義人	遠島幸雄
	副 長	小堀 泉 霜田義人 白井正明 津川恭一	霜田義人 白井正明 津川恭一	霜田義人 白井正明 津川恭一	白井正明 津川恭一	白井正明 津川恭一	高野 浩 峯田 淳
ベンチャ隊	隊 長	—	—	—	飯野佳宣	霜田義人	津川恭一
	副 長	—	—	—	津川恭一	白井正明 津川恭一	荒引富夫 白井正明

夏季舎営・キャンプ開催地一覧

年 隊	ビーバー	カブ	ボーイ	ベンチャー
92	氏家町 キャンプ場	—	—	—
93	七入山荘 (桧枝岐村)	七入山荘 (桧枝岐村)	—	—
94	高原山 少年自然の家	高原山 少年自然の家	—	—
95	塩谷町 少年自然の家	塩谷町 少年自然の家	—	—
96	南那須 少年自然の家	高原山 少年自然の家	氏家町 勝山城址公園	—
97	南那須 少年自然の家	南那須 少年自然の家	氏家町 勝山城址公園	—
98	高原山 少年自然の家	南那須 少年自然の家	東荒川ダム 周辺地	—
99	高原山 少年自然の家	栃木県 海浜自然の家	氏家町 ゆうゆうパーク	—
00	南那須 少年自然の家	栃木県 海浜自然の家	東湖屋・東荒川 ダム周辺地	—
01	芳賀青年の家	烏山 少年自然の家	氏家町 勝山城址公園	氏家町 勝山城址公園

指導者研修・表彰履歴

研修履歴

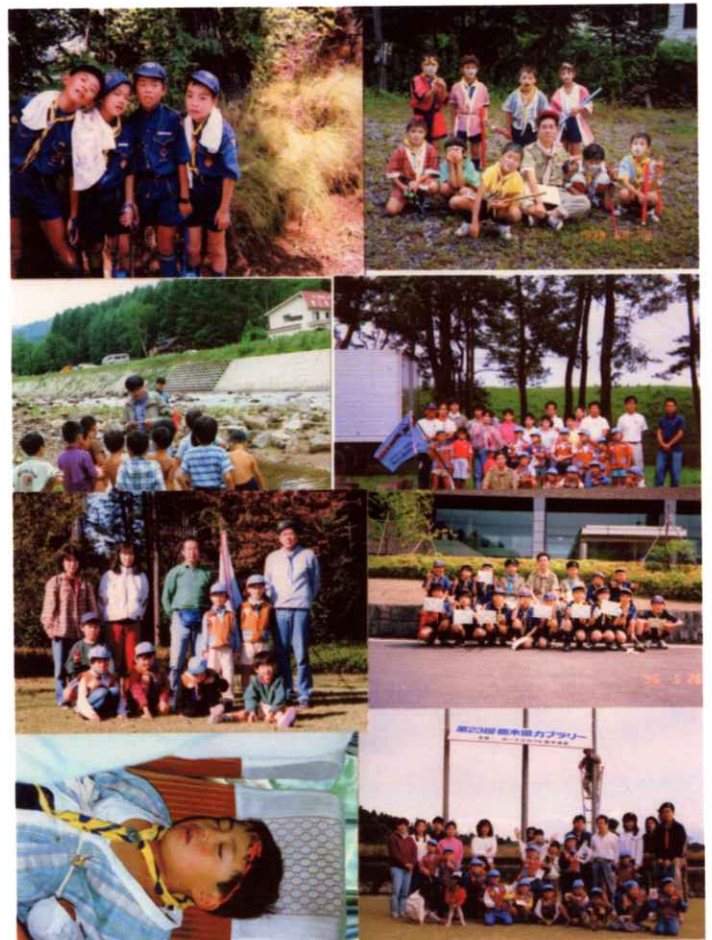
氏名	指導者講習会	ウッドバッジ研修所					ウッドバッジ 実修所
		BVS	CS	BS	SS	RS	
小堀 泉	79 年		83 年 栃木 9 期		80 年 栃木 2 期		
森島 仁	96 年						
安部 重孝	84 年	91 年 栃木 1 期		85 年 千葉 22 期 93 年 栃木 15 期			86 年 81 期(BS 課程)
津川 恭一	93 年						
霜田 義人	94 年						
星野 光雄	96 年						
白井 正明	96 年						
高野 浩	96 年						
岡田 孝一	96 年						
荒引 富夫	96 年						
佐々木達三	98 年	99 年 栃木 5 期					
遠島 幸雄	98 年	99 年 栃木 5 期					
竹川 章夫	99 年	00 年 栃木 6 期					
峯田 淳	99 年		02 年 栃木 23 期				
鈴木 博	01 年						
磯 勝次	01 年						
竹田 和典	01 年						
竹川 香織	01 年						
高木 久光	02 年						
松田 一男	02 年						
沖田 忍	02 年						
阿久津千春	02 年						

発団（1992年）



ポニーフカウト指公第8回 発行式

1992年7月1日 氏家町公民館



創生期(1993 年-1995 年)



94年8月舎営



94年黒磯カブラリー



94年 尾瀬舎営
(ひのえまた)



95年小山カブラリー

塩谷8団 10周年記念誌

成長期(1996 年-1999 年)

97年本宮さんの送別会



97年宇都宮陸上自衛隊



拡大期(1999 年-2002 年)



99年 高原山舎営(みつもち山)



99年10月隊集会(総合公園)



99年カブラリー(今市)



99年 元気アップ村



00年 菖蒲が浜スキー場



00年 小川町ミニカブラリー



00年 沖田さんファミリー



01年 富田さん送別会



01年 5月隊集会



01年7月隊集会



01年舎営(益子)



01年 子供総合科学館





01年上進式



01年氏家町民体育大会



02年団祭(10周年)



02年団祭(10周年)

写ってないLD ごめんなさい

表彰履歷

氏名	日連 特別年功章		県連 おおるり章			県連 有功章
	5 年	10 年	銅章	銀章	金章	
小堀 泉			94	98		
森島 仁			02			
安部 重孝	91	96	94	98		98
津川 恭一	99		01			
霜田 義人	99		01			
星野 光雄	01					
白井 正明	01					
高野 浩	02					
岡田 孝一	02					
荒引 富夫	02					
佐々木達三	02					
遠島 幸雄	02					

指導者の一言寄せ書き

[illegible]

編集後記

カブ隊 高木 久光

ボーイスカウト塩谷8団の10周年にあたり記念誌を作る事になり、リーダー1年目の私はどうしてよいか分からず、あたふたしているうちに1年以上の歳月が過ぎてしまいました。

(10周年に間に合わずごめんなさい。)

編集を終えて、発団当時の新聞の切り抜きや写真を見てその歴史に触れ、寄稿戴いた文書を読み先輩リーダーの苦労やお母様方の思いに触れ新米リーダーの私としては、これからも先輩リーダー達に負けないくらい「たくさんの子供たちの笑顔に逢いたい。」

そんな気持ちです。

最後にお忙しい中、ご寄稿頂きました皆さま、貴重な写真を提供いただきました方々に感謝申し上げますと共に今後もボーイスカウト塩谷8団の活動を支援いただけますようよろしくお願いいたします。

ビーバー隊 松田 一男

遅くなってしまいました、10周年記念誌が11周年目にて発行にこぎつけました。ひとえに編集者の力不足をお詫びします。

この記念誌は多くの人たちのご協力により発行されました。文書を寄稿していただいた人々、写真を提供していただいた人々、掲載写真を選択する際に集まっていたいただいた人々、印刷、製本の際に協力していただいた人々、この場を借りてあらためてお礼申し上げます。とくに掲載写真の選択の際に、キャンプをしながらみんなで思い出話に花を咲かせた(聞かせていただいた)のは楽しい思い出です。

10周年記念誌の編集を受諾したさいには、塩谷8団の歴史もろくに知らなかった私ですが、この編集を通じて塩谷8団の発団からの経緯や歴史を知り、先輩方の努力、保護者の方々のご協力があり、現在の活発な活動が支えられているのを改めて知りました。まだリーダー歴1年ですが、『スカウトの目線からはひたすら楽しく、大人の目線からはよき社会人へ一歩』をめざし、がんばっていききたいと思います。

今回提供していただいた貴重な写真や歴史は団の財産として、今後の15周年、20周年祭へとつなげていきたいと思っています。

今後ともスカウト活動へのご支援を賜りますよう、よろしくお願い致します。